全国浴場新聞
発行所
全国公衆浴場業環境衛生同業組合連合会
東京都千代田区麹町1-10-2
TEL(262)6241-5
購読料 1部 35円

全国の代表愛知に集結

要望実現へ団結を誓う

決意を示すスローガン

浴場業者大会

公衆浴場業者の経営に関する法制の制定、公衆浴場業に対する補助金の導入、熱及び燃料の改善、重油値段の値上げ反対、浴場経営の健全化とサービスの向上、これらの大会スローガンを掲げた「全国公衆浴場業者愛知県大会」は去月二十日、名古屋市「愛知県中小商業センター」で行われた。この大会には北は北海道、南は沖縄を含む全国から四百人の代表が参加、義務の履行義務の拡大問題や、公衆浴場の環境衛生問題、五十四年度の事業、浴槽組合、五十四年度事業計画、予算案などが審議された。また大会前日の二十日には、松岡厚生省環境衛生部長、中村公衆浴場課長、厚生省環境衛生部長、厚生省公衆浴場課長、厚生省環境衛生部長、厚生省公衆浴場課長、厚生省環境衛生部長、厚生省

意見発表の要旨

全浴大会

省エネルギーと大陽熱の利用

富山県浴場組合副理事長　本郷　行雄氏

公衆浴場業界は、ともかくいろいろな企業努力が足りないといわれてきた。省エネルギーに対処するには、約2%を比較的安価な自家風呂所有の方がもっとも効率的であるといわれている。素燃料（ガス）の使用は、1日の大人換算入浴者数で四十五～五十枚という数字が必要であり、柴燃焼（バキュム）の使用は、1日の大人換算入浴者数で約六百五十から七百五十枚といわれている。

しかし先に述べたように、石油エネルギー偏からも燃料費の節減を図るために、原木が安価供給されるとは一対一に対応しないが、まず町の雑木を利用して、国の省エネルギー政策に協力することから始まる。

二、林業技術としてはサンシイ、二、林業技術としてはサンシイ、ヤシ、ヒノキ、ヒバ、ヒノキ、ヒバ、ヒノキ、ヒバ

抜き書き浴場史

古川文彦

日露戦争」の「ものがたりはじまり」によると「江戸では風呂屋まは、幕末に流行した風呂屋と、明治時代に流行した銭湯とは、同じように、同じように思っていて、同じように思っていたが、明らかな区別があり、湯を沸かして入浴させるのが風呂屋であり、水を使って入浴させるのが銭湯である。

銭湯についての研究の本をみたがいまから七百四十余年前、神社、仏閣の多い鎌倉幕府で、独立した銭湯がすでに存在していたことが、「今昔物語」（一二三四年）の中にあり、また、これより古い、京都地方の『洛陽』（一二一四年）の中に、「洛中の民家、商人、職人などが、まずは、自分の住居を建てるに当たって、まず、銭湯を建てるのが、当時の人々が利用していたことの証拠である。

また、『吾妻鏡』の『北条氏』では、「鎌倉時代、関東の鎌倉では、体を洗うことを、『ゆ』といい、『ゆ』を出し、浴槽は、『ゆ』を沸かすことを『ゆ』を出し、浴槽は、『ゆ』を沸かすことを『ゆ』を出し、浴槽は、『ゆ』を沸かすことを

沿場今昔ものがたり

大原十六

銭湯の心を取り戻そう
なつかしい江戸っ子気質

「眠くて眠くてあつい話」

「眠くて眠くて」は、「眠くてあつい」の間違い。

「浅草日記」に、「眠くて眠くて、眠くて眠くてあつい話」

「眠くて眠くてあつい話」

本紙3月号に江戸っ子銭湯好きを書いたと言、結びにあげた句が、「眠くて眠くてあつい話」の間違いの出る。

「浅草日記」に、「眠くて眠くてあつい話」

「眠くて眠くてあつい話」

「眠くて眠くてあつい話」